

有害鳥獣（特にイノシシ）対策について 佐久間 儀郎



【質問】市の被害面積と被害額はいくらか。

【答弁】平成25年度は、被害面積は3千376アール、被害額は2千761万3千円である。駆除頭数は589頭であり、仙南全体で3千260頭を超える。

【質問】地域ぐるみ防除、捕獲の意識高揚が必要ではないか。

【答弁】【市長】わいわいトークの折に、生態と箱わたの捕獲資料を配布して説明をしている。本年度は講師による研修会も見込んでいます。

【質問】集落単位での防除体制づくりの行政の指導について考えを伺う。

【答弁】【市長】齋川地区の鳥獣対策協議会が、補助金を活用して5千707メートルのワイヤメッシュ柵を設置した事例がある。他の地区でも相談願いたい。

【質問】一市だけの対策は難しいため、広域連携体制構築が必要であり、宮城県への支援要請について考えを伺う。

【答弁】【市長】宮城県市長会では県知事に、全国市長会では県選出国会議員に、対応の要望をしている。

【質問】捕獲駆除後の処理（残渣処理）に課題があり、専用焼却施設を設けることで、現場の負担軽減や処理の迅速化を図るべきではないか。

【答弁】【市長】一自治体では難しい。県全体ですっかり対応するよう要望をしている。

【質問】本市と角田市、丸森町だけで仙南2市7町の80%を超える捕獲駆除をしている。広域2市1町でも国の財源を使い、合同で施設を設ける考えもある。全国に実例もあり、（仮称）仙南クリーンセンターの計画に焼却施設を加えることはできないのか。

【答弁】【市長】現在、（仮称）仙南クリーンセンターにはその計画はない。現状を見ながら国や県が先頭になってくれるよう要望をしている。

【質問】鳥獣による人的被害等の本市の実態はどのような状況なのか。

【答弁】一年前に越河で熊の人的被害、イノシシについては、白川地区通学路への出没、軽自動車や列車との衝突がある。最近では、南中学校付近での熊の出没情報があり、学校に連絡し対処をお願いしている。

【質問】特措法改正で市町村の計画に被害防止事項を盛り込む制度となったが、子ども達の安全対策はいかに担保するのか。

【答弁】【教育長】熊の出没情報等を学校メールで知らせている。熊鈴を付けての集団下校や父兄に送迎の要請、教職員の沿道見守りを行っている。その他の質問

【収納対策について】

JR白石駅構内の整備について 澁谷 政義



【質問】どこの都市も駅が交流拠点として栄え活力を生み出し繁栄してきた。本市には、17年の歴史ある白石駅を含め5つの駅がある。白石駅を利用する多くの市民より、東側からの改札や連絡通路等の整備事業に要望が寄せられている。交流拠点都市づくりを目指す市長の所見を伺う。

【答弁】【市長】今現在、架かっている東西通路が40年経過しているのか、修繕がいいのか、どのような手段がいいのか市民の意見を伺いながら検討に入りたい。

【質問】自動改札を利用して東口から直接ホームに入れる形は考えていないのか。

【答弁】【市長】20年前くらいに橋上駅の構想もあったと聞いている。そのことも市民の意見を聞き、同時にJRとの交渉も出てくるので、その点も踏まえていきたい。

【野生鳥獣による被害対策について】

【質問】白石市鳥獣被害対策実施隊によるイノシシ等の捕獲駆除活動を行っているにも関わらず、広範囲に出没し被害を拡大させている。また、これらの活動に携わる隊員も年々高齢化が進み、新たな隊員の確保も困難な実状にある。今後、これらに対処するためにも、専門知識（技術）と各資格を有する「専門職

員」を採用し備える必要があると考えるが、市長の見解を伺う。

【答弁】【市長】高齢化が進んでいるが、鳥獣被害対策実施隊の方々と連携を図りながら、被害の軽減に努めている。今のところ専門職員を置く考えはない。

【質問】他県には専門課もある。また、専門に勉強をしている方もいるので市で採用し育て、備えた方が効果があると考えるがどうか。

【答弁】【市長】現在、専門職を置くつもりはないが、鳥獣被害対策実施隊の部分で、狩猟免許を取りやすくすることも一つの方法であり、宮城県に対しては、箱わた設置の資格を取る試験の回数を増やすように要望をしている。